

中国圏広域地方計画の見直しに関連した意見・提案

- ① 中国圏が今後とも持続的に発展してゆくために何が必要か。
- ② そのために、施策など行政に期待するものは何か。

1 社会経済情勢と国土・地域政策の確認

○「平成7年（1995）をピークに中国圏の人口は減少に転じている。」（配布資料4、1頁）

1990 日本経済・バブル崩壊、デフレ経済のスタート

1991 ソ連崩壊、冷戦終結、本格的なグローバル化の到来

<1995.1 阪神・淡路大震災>

1998 (H10) 「21世紀の国土のグランドデザイン」

|      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 基本目標 | 1 多軸型国土構造の形成                        |
|      | 2 地域の選択と責任にもとづく地域づくり（多様な主体の参加と地域連携） |

2008 (H20) 国土形成計画、広域地方計画

|     |   |
|-----|---|
| 枠組み | ①全国計画：国による明確な国土及び国民生活の姿の提示（国の責務の明確化）                |
|     | ②広域地方計画：ブロック単位の地方ごとに、国と都道府県が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力して策定 |
|     | ③計画への多様な主体の参画：地方自治体から国への計画提案制度                      |

<2011.3 東日本大震災・福島原発事故>

<2012 安倍政権スタート、「アベノミックス」>

2 中国圏広域地方計画の見直しにおいて考慮すべき事項と期待

(1)「地域防災力と産業競争力の強化」による安全で安心な暮らしの持続

[必要事項] 地域経済力の維持・更新、中国地域においては製造業が高い生産水準を維持なかでも基礎素材型・加工組立型製造業

(例) 石油化学（山口県）、鉄鋼（岡山県・広島県）、自動車・造船（広島県）

[期待] これらの産業を地域防災力と産業競争力の強化の両面から支える港湾などの社会基盤の整備が必要、そのためには民間事業所のこれら両面に関してのニーズの適確な把握が重要

(参考) 中国地方物流戦略チーム「地域防災力・産業競争力の強化に向けた国際物流に関する政策提言」(H23.8)

(2)地域内外への情報発信を意識した「中国圏の発展戦略を提示」

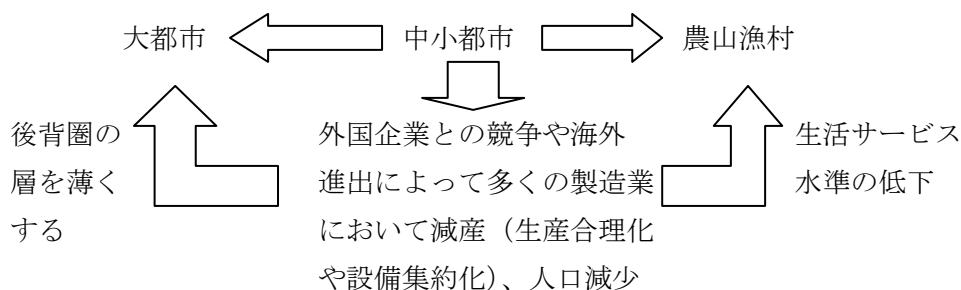
[必要事項] 中国横断自動車道（尾道松江線・姫路鳥取線）の完成による瀬戸内三架橋を活用した中国と四国を南北軸がようやく整い、瀬戸内海や島嶼地域を囲んだ西

日本の一体的な地域発展の構図が現実的なものとなる。1998年計画においてはこの点が大きく打ち出されたが、2008年計画においては大きくトーンダウンしている。

[期待] 中国圏は隣接した四国圏はもとより、関西圏や九州圏との間の協議を大切にし、広域連携のもとでの中国圏の発展戦略の策定が期待される。

### (3) 中小都市をみすえた都市と農山漁村との一体的な発展

[必要事項] 周辺の地域を含め都市内外の多くの人々によって訪れ、利用されやすい都市が発展する。中国圏においては、下のような製造業が卓越している中小都市の元気が失われているという特有の問題が現実化していることを認識すべき。



[期待] 中心一周辺の相互依存的な地域構造を維持してゆくためには、製造業が卓越していた中小都市をみすえた政策・施策が重要。

### (4) 本来的な骨太の軸の形成による中国圏内の円滑な経済循環と多様性の実現

[必要事項] 高速道路による都市間連結はややもすれば、途中にある地域を通過もしくはストロー現象により地域活力の都市に吸引されかねない。高速道路のような幹線ネットワークだけでなく、毛細血管に相当する一般道路やそこでの沿道地域の維持が沿道地域の多様性のみならず、それが結びつく都市の多様性を形成してゆくためにも重要。これこそが本来的な骨太の軸形成つながるのではないか。

[期待] 「コンパクト+ネットワーク」の検討に当たっては、中心と周辺を完全に機能分離するのではなく、集中させるものとこれまで通り分散配置するもののバランスをとることの検討を期待したい。日本の近代化が効率性を重視した機能分化の一途をたどり、同じような街の姿が多く形成されてきたことを鑑み、用途の混合による多様性の形成こそが新産業の育成、暮らすく豊かなにつながる未来への地域発展を実現するものと期待する。

以上。